

おだがいさま

odagaisama

第 37 号
平成 23 年
11月15日発行

藤島 大半田町内会 マップ作ってたすけあい

東日本大震災特集(P2~4)

福祉のつどい(P5)

情報掲示板(P6)



藤島地区・大半田町内会では、福祉と防災を兼ねたマップを作ることになりました。このマップは、支援が必要な世帯や消火栓の位置などを記しておき、災害発生時等に役立てるものです。

以前からマップ作成の必要性について話し合われてきましたが、3月11日の東日本大震災の発生や防災訓練を行ったことなどがきっかけとなり、町内会役員・民生委員が中心となって、10月3日に1回目のマップ作りを行いました。

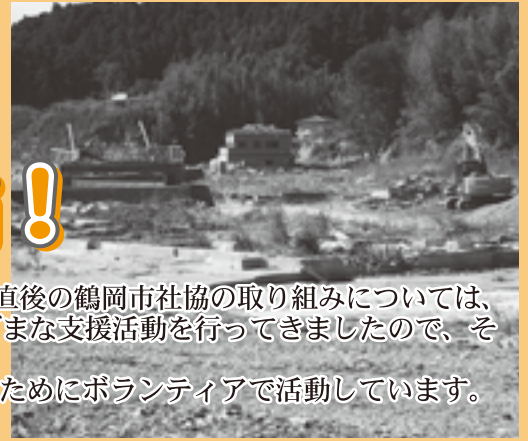
マップを作りながら「災害が起こった時、地元で安全な場所の確保や周知していくことが必要」「バラバラになると安否確認が大変」など話題になりました。今後、話し合いを重ねて内容を充実させ、地域のために活用していくこととなります。

東日本大震災特集

広がれ！ 被災地復興支援の輪！

3月11日の東日本大震災発生から約8か月が経過しました。震災直後の鶴岡市社協の取り組みについては、おだがいさま34号においてお伝えしておりますが、その後もさまざまな支援活動を行ってきましたので、その一部について改めてお知らせします。

また、鶴岡市内では多くの個人、団体の方々が被災地・被災者のためにボランティアで活動しています。今回は4名の方々からお話を伺いましたので、併せてご紹介します。



鶴岡市社協の 取り組みについて

募金活動

山形県共同募金会鶴岡市支会として義援金を募集し、NPOや学生の皆さまから街頭募金にもご協力いただき、多くの義援金をお寄せいただいております。

街頭募金



NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワークと大学生が街頭募金に協力してくれました。

実績

5,273,030円（九十三件）
（平成二十三年十月十一日現在）

義援金は、中央共同募金会に送金した後、被災都道県に設置された義援金配分委員会からの依頼により都道県に義援金が送られ、市町村を通じて、被災された方々に配分されています。

なお、中央共同募金会では、当初、平成二十三年九月三十日までとしていた義援金の募集を平成二十四年三月三十一日まで延期しました。

被災地への支援物資

宮城県や福島県内の避難所などに、現地で必要とされる生活用品等の救援物資をお届けしました。

救援物資の内容

送り先	主な物資
宮城県石巻市八幡町	スコップ、自転車、長靴、水、ストーブ、カイロ、肌着、学生服、野菜、布団等
宮城県石巻市湊小・中学校避難所	スニーカー、長靴、扇風機等
宮城県南三陸町平成の森避難所	自転車、使い捨て食器、やかん、シーツ、毛布、調味料、洗剤、皿、ミシン等
福島県南相馬市鹿島区避難所	パン・クッキー（かたぐるまより）等

（平成23年9月30日現在）

支援物資



たくさんの物資を積んで被災地へ届けました。

鶴岡市へ避難している方への支援

被災地から鶴岡市へ避難されてきた方が本市で新たな生活を始めるにあたって、鶴岡商工会議所から鶴岡市への義援金を財源

にして、支度金をお渡ししました。九月末の受付終了までに二九七件の申請があり、本市での生活に役立てていただきました。

災害ボランティアについて

登録ボランティア

多くの市民の方から鶴岡市ボランティアセンター（以下「鶴岡ボラセン」）にボランティア登録いただき、鶴岡市内や被災地で復興支援のためのさまざまな活動にご協力いただきました。

登録者数 四三〇名

（平成二十三年十月十五日現在）

被災地でのボランティア活動

鶴岡ボラセンでは、被災地復興支援「かたづけ人」として、宮城県石巻市などへ登録ボランティア等の派遣を行ってきました。四月十日から十月三十一日までの間の（八月を除く）毎週土曜日または日曜日に実施してきた「かたづけ人」の活動には、毎回多くの方からご参加いただきました。

支度金	件数
住宅支度金	103
就職支度金	73
就学支度金	78
入園支度金	36
育児支度金	7
合計	297

支度金支給総額 28,600,000円

「かたづけ人」

活動回数二十三回、延べ参加人数七八九人

(平成二十三年十月三十一日現在)

活動内容は、毎回、現地の社協等と調整しながら決定し、土砂・瓦礫の撤去、側溝清掃や個人宅・お寺の境内の清掃などを行い、復興に向けた継続的な支援活動に取り組むことができました。



瓦礫の撤去



床下の泥上げ

「かたづけ人」活動の様子

また、鶴岡ボラセンには、鶴岡市内の団体・NPOなどから被災地支援を行いたいとの要望も多く寄せられました。鶴岡ボラセンでは、鶴岡市民によるボランティア活

動がスムーズに行われるよう、現地との調整役となつて市民の皆さまとともに活動してきました。避難所などでの炊き出し、傾聴活動(行茶ボランティア)などを行ったほか、鶴岡市内で開催するイベントへ招待するなどの活動を行いました。

曹洞宗青年僧による「行茶ボランティア」



お茶とお菓子を準備して、被災者の方から心安らぐ時間を過ごしていただきました。

被災地では、復興に向けた支援がまだまだ必要になります。鶴岡ボラセンでは、現地の社協や災害ボランティアセンターと連携を図り、状況把握に努めながら、これまでの活動を継続していきけるよう検討しています。また、宮城県石巻市や南三陸町歌津地区において、被災された皆さんが気軽に集まれる場づくりや季節に合わせたイベントの開催などを検討し、被災された方同士、また、鶴岡市民とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

鶴岡市社協では、今後も継続して復興支援に取り組んでいきますので、市民の皆さまからのご理解とご協力をお願いします。

被災地・被災者支援 頑張っています！ ボランティアの声

登録ボランティア

粕谷 政雄さん

今から八か月前、連日報道される被災地の惨状を見て、隣県に住む者として何か役に立つことが出来ないかと考えていました。今年三月末で定年退職を迎え、自由な時間を持てるようになったこともあり、鶴岡市ボランティアセンターが始めた『かたづけ人』にすぐさま応募しました。

発災から一か月後、はじめて入った宮城県石巻市は、大量の瓦礫で埋め尽くされていました。大きなゾウを目の前にしたアリの気持ちになって、瓦礫やヘドロと格闘する作業に取り掛かりました。現地には、毎週末、マイクロバスに乗って三十名ほどの



「かたづけ人」参加者のみなさんと

参加者で出かけます。男女の構成はほぼ半数、年齢も十代から七十代と幅広い。互いに初対面ながら協力して作業を進め、終わると皆の表情に充実感が溢れてきます。

ある時、現地に住む方から「いつまでたっても片付かない瓦礫を見ると、頑張ろうという気持ちが萎えてくる」との話を聴きました。『かたづけ人』の活動は、瓦礫の除去など居住環境を整えることが主な役目でありますが、落ち込みがちな住民の「心の再生」にも深く結びついていると再認識しました。

それにしても復興の歩みは遅い。被災者の多くは生活再建に向けたレールに未だ乗ることができないでいます。これから継続的な支援が必要とされていることを忘れてはなりません。私は、同じ東北人として、今後の支援活動にもさまざまな形で係っていききたいと考えています。

NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワーク

佐藤 薫さん

私が四月十六日から毎週通った宮城県南三陸町歌津地区にある平成の森避難所は、八月中旬に全ての避難者が仮設住宅に移り、閉所しました。それまでの間、行政や社協の皆様にも多大なご協力をいただき、まさに『おだがいさま』の精神が貫かれた協力体制ができたと思っています。

去る八月二十一日に鶴岡災害ネットワーク主催で『だだちゃ豆プロジェクト』平

成の森』として、被災者の方々の慰労と復興を願って、鶴岡から持参した、だちや豆などを振舞いました。あいにくの小雨模様でしたが、約四百名の方に参加いただきました。抽選会では、庄内産の新鮮な野菜を求めて大いに盛り上がり、最後の打ち上げ花火は、空いっぱい広がる大きな花火とドーンという音で胸がいっぱいになったのか、思わず涙ぐむ方もいました。「とつても楽しかった」「来年もやってほしい」などの言葉をいただき、こちらも感激しました。



「だちや豆プロジェクトin平成の森」の様子

さて、全て自前でやらなければならぬ仮設住宅での生活の方が大変だという声も多く聞かれます。買い物をするにも店が近くにない。車もない。バスは数時間に一本。など課題は多くあります。八月二十二日から今日まで仲間二名（チームはちまき）と定期的に傾聴活動をしております。一方的な物資提供で終わらないように、高齢者の生きがいづくりや生活支援などにも配慮

しています。内職のためのミシンも五台お届けできました。今後も、地域のリーダーと相談しながらニーズに沿った活動を、相手の心に寄り添いながら続けていこうと、仲間と誓っています。

社団法人鶴岡青年会議所

赤川花火大会「希望の光プロジェクト」

小池 昌和さん



赤川花火大会での子ども達の様子

（社）鶴岡青年会議所（以下鶴岡JC）では、震災直後からいろいろな形で被災地応援事業を行っております。その中の一つで、八月十日に一泊で行われた、がんばろう東北心の連携事業『希望の光プロジェクト』は、被災した地域の子も達に赤川花火大会を見て楽しんでいただき、笑顔と元気を取り戻し、被災地の復旧・復興に向けて前進する力に繋がればとの思いで行われました。当初の計画では、被災地の子も達四百名を招待、それに加え、鶴岡市・三川町に

避難している被災者六百名、合計千人の大規模事業でした。行政の補助金等により事業資金の確保はできたものの、JCメンバー全員は赤川花火大会のスタッフでもあるので、当然この事業はJC単独で行うことは出来ませんでした。それどころか、どう参加者を集めたらよいのかも分からず思案する日々が続きましたが、JCの先輩に「鶴岡ボラセンに行ってみたら？」の一言で全てが解決できたように思います。その後は、被災地にも何度か足を運び、何かあればボランティアセンターに相談に通う日々が続き、当日は八十名近い鶴岡のボランティアの方々のご協力により、無事、事業を終えることが出来ました。

子ども達は、最後まで笑顔で帰って行きました。後日、保護者の方々から沢山のお礼の手紙をいただき、この事業が被災した地域の方々に少しでも役に立てたという実感が湧き、涙が止まりませんでした。

沢山の出会いと、この事業にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

『おりくくらぶ』想いのかたちプロジェクト

佐藤 みきさん

この度の大震災を受け、おりくくらぶは、全国組織の手織適塾 SAORI の企画、一万枚のマフラー作り『想いのかたちプロジェクト』に賛同し、「みんなつながっているよ」の想いを込めて作品を作っています。全国から集まったマフラーを SAORI

で販売し、被災地への支援金にします。さをりは、障がいを持つ人も持たない人も、誰もが楽しむことができる『手織り』です。おりくくらぶも、誰もが等しく人として尊重し合いながら共に生きるというノーマライゼーションの実現を織物を通して取り組んでいます。今回のプロジェクトには、くらぶのメンバーだけでなく、さまざまな方からご協力をいただいております。七月に庄内町で開催された『みんな違って、みんないい！みんな一緒！』のおりくくらぶブースや鶴岡市障害者相談支援センターに織り機を設置して皆で織りつないでいき、今できることを積み重ねています。織ることで、苦しみ、悲しみ、怒りなどのマイナスの感情を浄化させ、癒しにもつながります。今後、被災地から鶴岡へ避難されて来た方で、希望される方がいらつしやれば、織り体験などの場を提供していきたいと思っています。



さをり織の様子

福祉のつどい

おだかいさまのまちづくりを目指して

去る10月20日(木)、中央公民館ホールで「福祉のつどい」を開催しました。当日は、約400人の市民の皆さまからご参加いただきました。

オープニング



鶴岡市ゆうあいプラザ

利用者のみなさんによる歌と踊り

表彰

長年、地域福祉の向上に貢献された方や団体へ表彰状・感謝状を贈呈しました。

表彰状

* 佐藤 三重子 様 (鶴岡地域)

* 澁谷 玲子 様 (鶴岡地域)

* 本間 光男 様 (鶴岡地域)

* 諏訪 スミ子 様 (鶴岡地域)

* 白甕社 様 (鶴岡地域)

* 鈴木 せつ子 様 (藤島地域)

* 富樫 光子 様 (藤島地域)

* 羽黒高等学校インターアクトクラブ 様 (羽黒地域)

* 櫛引語りっ子の会 様 (櫛引地域)

感謝状

* 鶴岡市立朝陽第一小学校 様 (鶴岡地域)

* 五十嵐 節子 様 (鶴岡地域)

* 佐藤 昭一 様 (温海地域)



表彰式の様子

市社協の活動紹介

「東日本大震災における市社協の取り組みと地域支え合い活動について」

東日本大震災において、市民の皆様や行政、NPO、関係機関など、多くの方にご協力をいただきながら鶴岡市社協が行った被災地・被災者支援について紹介しました。また、今回の震災のような大規模災害発生時には、住民同士の日頃からの支え合いが大切になることから、現在、市内各地で行われている地域支え合い活動について併せて紹介しました。



スライドを使って説明しました

講演

演題 「地域が変わる。福祉も変わる。」

講師 (財)社会福祉研究所 事務局長

日本地域福祉研究所 特別研究員

高橋 信幸氏

他市町村の実践事例を交えながら、鶴岡市地域福祉活動計画における「おだかいさ

まネット活動(仮称)」の推進などを中心にご講演いただきました。今後、鶴岡市民一人ひとりが、自分のまちの福祉について、ともに考え、支え合い、解決していくことの大切さ、また、地域の中にお互いに助け合う仕組みをつくることの重要性などについてお話ししていただきました。



高橋 信幸氏

福祉施設製品の展示・販売

今年度は、「かたぐるま」、「もみじが丘」、「おからや」、「さくらが丘」、「羽黒山ぶしいたけファーム」が出店しました。



心のこもった製品を販売しました

情報掲示板

「グリーンカーテンコンテスト」で『特別賞』を受賞しました

鶴岡市と民間でつくる環境つるおか推進協議会が実施した「グリーンカーテンコンテスト」において、応募41点の中から鶴引福祉センターが特別賞を受賞しました。



この夏は、猛暑に加え節電対策も重要視されましたが、立派なカーテンに育ってくれたお陰で、西日を遮ることができ消費電力を抑えることができました。

来年も、きれいなカーテンで多くの方々にく目で見える涼>を提供できたら、と思っています。

「和歌山県平成23年台風12号災害義援金」の募集について

台風12号で被害を受けられた方々を支援することとを目的に和歌山県共同募金会が義援金を募集しています。

- 受付期間 12月8日(木)まで
- 義援金受入口座

金融機関	支店名	口座番号	口座名義
紀陽銀行	本店営業部	普通預金 2097718	社会福祉法人和歌山県共同募金会
和歌山県信用農業協同組合連合会	本所	普通預金 0003572	和歌山県共同募金会災害用
ゆうちょ銀行	口座記号番号 00990-8-1130		和歌山県共同募金会台風12号災害

- (1) 紀陽銀行各本支店間及び和歌山県内JA/バンク間での振込手数料は無料です。
- (2) 上記以外の他銀行からの振込については、有料扱いになります。
- (3) ゆうちょ銀行での振込手数料は無料です。
- (4) ATMを利用の振込は手数料がかかります。

●現金書留による義援金の送金について

〒640-8319

和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階
社会福祉法人和歌山県共同募金会 まで

※宛名のところに「救助用郵便」と明記の上、送金下さい

●義援金の配分 義援金配分委員会で決定し被災者に配分します

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成23年8月21日から平成23年10月20日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センター

- ・鶴岡カラオケ友の会 様 30,000円
- ・藤島カラオケ愛好会 様 30,000円
- ・今野 隆 様 100,000円
- ・チェンミン・夏の思い出コンサート 様 20,000円
- ・庄内なつメロ会 様 100,000円
- ・杉山 敏 様 5,000円
- ・NTTグループボランティア山形いきいきネットワーク 様 タオル100枚
- ・八沢会 様 100,000円

・太田 広美 様 本2冊

◎藤島福祉センター

- ・藤島ゲートボール協会 様 10,000円

◎温海福祉センター

- ・佐藤 一 様 50,000円

★鶴岡老人福祉センターへ

- ・本間 静子 様 50,000円

★鶴岡市ゆうあいプラザへ

- ・五十嵐 仁 様 車いす移動車 1台
- ・五十嵐 仁 様 100,000円

★地域福祉センターなえづへ

- ・斎藤 民恵 様 10,000円
- ・佐藤 克子 様 オカリナCD

★じゃがいも畑へ(特定指定寄付)

- ・株式会社カワ 鶴岡工場 様 74,578円

★東日本大震災被災地へ

- ・鶴岡ナツメロ愛好会 様 100,000円

「絆がグラウンド運動会」
家の人と手を繋ぎ、スキップしながら運動会の会場にきた子どもたち。年長児は「頑張るぞ」という意気込みもプラスする。競争、というよりも、親子・地域との絆を感じるあたたかい運動会。日々忙しく働いている方々だけに、子ども(孫)の笑顔は元気の源になることでしょう。

閉会式には、頑張りを讃え、一人ひとりに金メダルの授与。子どもたちは嬉しそうに首から下げています。しかし、どんなに大きなメダルでも、ご褒美でも、家族の方からの褒め言葉にはかないません。

「最後まで走ってカッコいっけぞ。」そんな素敵な親子・家族・地域の絆がいつまでも続くように、私たち保育士も応援し続けたい。

(〇)

◎ほっと「ラム」

おだがいさま

第37号

平成23年11月15日発行

発行部数 49,500部

編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市泉町5番30号(にこ♥ふる 2階)

TEL 24-0053 FAX 23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

鶴引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-3266

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。